

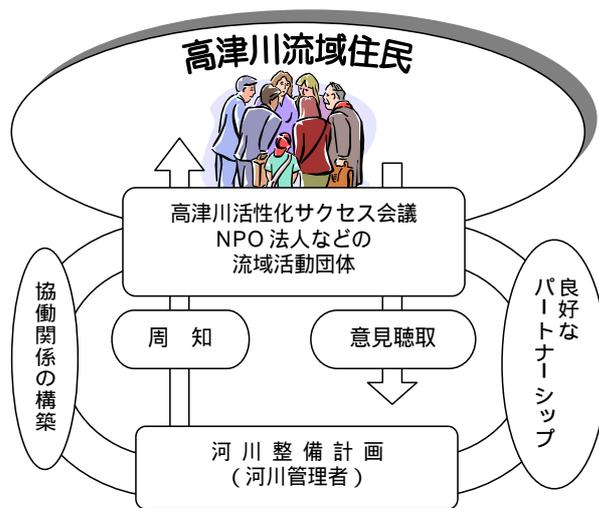
6. その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

6.1 連携と協働

高津川が安全でより多くの人々に親しまれるよう、地域と連携、協働し高津川の魅力あふれる川づくりを行います。

このため、河川管理者、関係機関、NPO 団体、地域住民等が、それぞれの役割を十分理解しつつ、互いに連携しあい川づくりを進めていくことが必要です。

高津川では、地域と連携した川づくりとして、今後も地域住民への広報活動に努めるほか、住民の要望や意見を踏まえながら整備に取り組み、必要に応じて支援していくとともに、地域の要望を踏まえ積極的に対応を図ります。



地域連携・協働の概念図

6.2 情報の共有化

連携と協働を実現するためには、治水・利水・環境に関わる情報を共有化することが重要です。

そのため、ホームページや事務所広報誌等を通じて、高津川の河川整備状況や自然環境の現状等に関する情報を発信し、情報を共有するとともに、意見交換の場づくりを図るなど関係機関や地域住民等との双方向コミュニケーションを推進します。

6.3 意識の向上

河川の持つ治水・利水・環境それぞれの機能は、河川管理者、関係機関及び地域住民がともに行動することで、十分な機能が発揮されるものです。

治水に関しては、河川の整備は段階的に進められます。つまり、その時点での治水機能を上回る規模の洪水が発生した場合の被害を軽減するために、地域住民の防災意識の向上が必要となります。このため、既に公表している浸水想定区域図に加え、益田市が作成するハザードマップに関しては必要な情報提供や作成支援を行います。

利水に関しては、高津川の水が、流域の貴重な財産であるという意識のもと、節水等の量的対策や家庭雑排水に対する質的対策等、身近にできる取り組みが地域に根付くように広報、啓発活動を進めます。

環境に関しては、自然体験活動等を通して、身近な自然である高津川に接する機会の提供、将来を担う子供たちへの環境教育の支援等、広く地域住民に高津川に対する関心を高めるための活動を行います。

6.4 社会環境の変化への対応

高齢化、世代間交流の希薄化等の地域社会の変化に伴い、高津川の河川空間が果たすべき役割も、新たな社会環境への対応が求められています。また、高津川は社会基盤形成の一つとして、多様な機能が求められています。

こうしたことから、高津川の河川整備においては、地域計画等との連携を図りながら、施設整備等のハード対策に加え、組織づくりなどのソフト対策に努めます。